

(飛鳥井参考人提出資料)

原爆体験者等健康意識調査について(いただいた御質問に対する説明)

質問事項	説明
<p>作業仮説 (調査で何を明らかにしようとしたのか)</p>	<p>○調査を行う前提として、以下の点についてご説明いただきたい。</p> <p>①誰に対して影響があったと仮定しているのか。黒い雨が降った地域の当時の住人全員なのか、黒い雨を浴びた人なのか。</p> <p>②健康に影響を与える原因は何だと考えたのか。原爆の放射線によるのか、黒い雨を見したことなのか、原爆に関連する体験したことなのか。</p> <p>③調査結果を導き出すためにどのような影響に焦点をあてているのか。がんなどの放射線被ばくと関連する疾患が増えたのか、その他の何らかの身体疾患が増えたのか、健康に関する満足度が下がったのか、精神的な影響が出たのか。</p>

	<p>④「いつの時点でその影響が出たのか。」、「現在も続いているのか。」等について把握する考え方はなかったのか。</p>	<p>いる病気の有無について回答を求めた。その中には黒い雨体験者においてオッズ比の上昇が認められた疾患もある。</p> <p>④ 調査時点現在における影響。使用した自記式質問紙尺度はいずれも調査時点現在の状態を測定するものである。</p>
--	--	---

質問事項	説明
<p>調査設計 (仮説を証明するために、どのような調査をしようとしたのか)</p> <p>○仮説検証のための調査の設計について、以下のポイントに関する考え方を明らかにした上で、ご説明いただきたい。</p> <p>①基本調査と個別調査の関係(各々の調査について)</p> <p>②主たる検定変数</p> <p>③比較するための群の設定</p>	<p>① 基本調査では各体験区分間で調査時点での健康影響に差があるといえるか。いえるとすれば寄与因子は何かを検証する。個別調査では基本調査で得られた結果をさらに検証するため、体験区分ごとに性と年齢をマッチングさせたサンプル集団間の比較を行った。</p> <p>② 基本調査:精神健康QOL(SF-8: MCS) 個別調査:精神健康QOL(SF-36)</p> <p>③ 非体験群(被爆者健康手帳非所持者で黒い雨体験が無い者のうち、その他の何らかの原爆体験やその影響を体験した者)。当初戦後転入者を対照群とする計画であったが、実際には原爆により家族を失った者が4割、慘状目撃者が26%に及ぶなど市内転居者を多く含むと考えられ、群としての特性があきらかでないことから解析対象となかった。</p>

	<p>④サンプルサイズ</p> <p>⑤サンプルの選択方法</p> <p>⑥統計検定方法</p> <p>⑦起こり得るバイアスとその排除方法</p>	<p>④ 基本調査は原爆投下前から現在まで広島市内ならびに周辺圏域に居住し続けている者全員を対象とした(有効回答率 74%) ;個別調査:未指定地域群は面接協力同意の得られた全例(N=159) ;比較対照群は未指定地域群と性別、年齢層分布をマッチングさせて無作為抽出(N=161)</p> <p>⑤ 詳細は報告書を参照していただきたい。</p> <p>⑥ 基本調査:重回帰分析 個別調査:分散分析</p> <p>⑦ 調査対象者がより訴えの強い者に偏るサンプリングバイアス⇒原爆体験者全体を含め原爆投下前から居住し続けていた者全員を調査対象とした。調査に関する広報を行い、回答率の向上に努め、高い回答率(74%)を得た。;リコールバイアス⇒原爆体験当時幼少期の者は本人自身の記憶が不確かである可能性が高いため、基本調査は調査時年齢 71 歳以上(原爆投下時年齢 8 歳以上)、個別調査は年齢 71-82 歳の者をサンプル抽出した。さらに個別調査では簡単なスクリーニングにより認知機能に問題のある者を対象からはずした。回答バイアス⇒個別調査ではK尺度得点結果により補正を行った。</p>
--	---	---